

令和7年9月の解説（週間天気予報）

【9月の天候状況】

上旬は、北・東・西日本は、天気は数日の周期で変わったが、東・西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多く、東日本太平洋側では旬間日照時間がかなり多かった。一方、北・東日本日本海側を中心に、前線や湿った空気の影響で大雨となった所があった。また、4日から5日にかけては台風第15号の影響で、西・東日本太平洋側では大雨となり、宮崎県、静岡県、神奈川県では線状降水帯が発生した。静岡県などでは竜巻が発生した。上旬の終わりは本州付近に前線が停滞し、長崎県と熊本県で線状降水帯が発生した。沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かった。旬平均気温は、暖かい空気に覆われやすく、低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ日もあったため、全国的にかなり高かった。旬平均気温平年差は、東日本で+2.9℃、西日本で+2.6℃、沖縄・奄美で+1.1℃となり、1946年の統計開始以降9月上旬として、東・西日本では1位、沖縄・奄美では1位タイの高温となった。

中旬は、北・東・西日本は、天気は数日の周期で変わったが、本州付近に前線が停滞しやすく、前線に向かって湿った空気が流れ込み、日本海側を中心に大雨となった所があった。このため、旬降水量は東日本日本海側でかなり多かった。一方、沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、旬間日照時間はかなり多く、旬降水量は少なかった。旬平均気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすく、北・東・西日本では低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ日もあり、沖縄・奄美では晴れて気温が上昇したため、全国的にかなり高かった。沖縄・奄美では旬平均気温平年差が+1.5℃となり、1946年の統計開始以降9月中旬として1位の高温となった。

下旬は、北・東日本を中心に高気圧に覆われて晴れた所が多かった。このため、旬降水量は、東日本太平洋側でかなり少なく、西日本日本海側で少なかった。また、旬間日照時間は、北日本日本海側と北・東日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側で多かった。一方、本州付近を低気圧や前線が数日の周期で通過し、21日には北海道で線状降水帯が発生し大雨となった所があった。西日本では期間前半に高気圧の周辺の湿った空気の影響を、後半は前線の影響を受けやすかった。このため、西日本日本海側と西日本太平洋側の旬間日照時間は少なかった。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすく、旬間日照時間はかなり多く、旬降水量は少なかった。旬平均気温は、暖かい空気に覆われやすく、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、全国的にかなり高かった。晴れた日が多かった沖縄・奄美の旬平均気温平年差は +2.2℃となり、1946年の統計開始以降9月下旬として1位の高温となった。

【9月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値(注)より1ポイント低い71%となった。地方別の適中率では、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部の各地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値を上回った。

最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値より0.3℃小さい1.8℃で、北海道では例年値と同じだったが、そのほかの地方では例年値を下回った。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値より0.3℃小さい1.4℃で、すべての地方で例年値を下回った。

(注) 例年の値は、2015 年～2024 年の平均値です。

【11 月の週間天気予報の利用にあたって】

11 月は、冬型の気圧配置となる日が次第に増える時期です。北日本や日本海側の地方では雨またはみぞれや雪の日が多くなり、太平洋側では晴れの日が多くなります。また、冬型の気圧配置になると北から寒気が流れ込んで、気温が下がりやすくなります。週間天気予報を雪への備えや農作物の管理、健康管理などにご活用ください。